

第2回 浜名湖エコワークショップ

■日時 平成23年2月19日(土) 13:00~

■場所 浜松市西区舞阪町

浜名湖体験学習施設「ウォット」、静岡県水産技術研究所浜名湖分場

1) 説明(県水産技術研究所浜名湖分場の施設説明、研究の紹介)

県水産技術研究所浜名湖分場の寫本分場長より研究所浜名湖の環境に関する研究や施設の紹介を受けた。

説明の中で、浜名湖の水産・漁業の視点から漁獲量や魚種、養殖の現状などの説明を行った。最近では、カニ・エビが少なくなっている。アサリの漁獲や経営体は増えている傾向について説明。



研究所の主な研究等の紹介

- 1 湖底環境改善によるアサリ漁場機能回復研究
- 2 資源添加率向上技術開発研究(車エビなど)
- 3 資源回復計画(トラフグの漁獲量などの調査)
- 4 良質なウナギ受精卵・仔魚生産技術
- 5 飼育環境制御によるウナギ重要性疾病研究



○浜名湖定点観測(水温・塩分・水質等の調査)

○プランクトン調査

○漁業の普及的業務として

- ・漁業経営・後継者育成
- ・漁業や養殖の技術指導
- ・浜名湖環境モニタリング(浜名湖定点観測)



2) 講演「環境保全団体のネットワークづくり」

NPO 法人地域づくりサポートネット 理事長 山内秀彦氏

はまなこ環境ネットワークの事務局を務めている中で感じている環境保全団体のネットワークづくりについて話をした。

はまなこ環境ネットワークは、そもそも県が環境保全に取り組む市民団体や企業、各種団体、行政などがゆるやかな連携をして、情報発信、活動をつないでいく「縁側・プラットホーム」のような機能で平成17年3月に発足した。ホームページや広報誌などによる情報発信や県民への環境啓発の取組みや活動団体の交流の機会などを提供している。



現在は、はまなこ環境ネットワークに登録されているグループが66団体あり、平成17年3月から6年が経過して、それらの団体の追跡調査なども行っている。浜名湖の環境保全活動団体を紹介した。

活動団体の課題としては、少ない財源で限られたメンバーでのボランティア活動になっている。どこの団体も参加者や資金を集めるのに苦労している。そのため、浜名湖で行われる活動やイベントを統一して情報を発信してもらいたいなどの要望も出ている。ただし、自主的にイベント等の情報を寄せてくれる団体は少なく、事務局としては情報を集めるのが苦労している。

また、活動費が少なく、1つの団体ではインパクトを与える大きな事業できないので、複数の団体が連携・協力していくことは有効であると述べた。

企業はリーマンショック以降、厳しい経済環境の中で、環境も重要であるがCSRや社会貢献にかける時間と経費が大幅に削減されている。企業が自ら環境保全活動を企画・実施することは難しいため、ここ数年はまなこ環境ネットワークが行う事業に参加・協力していき、環境に寄与するニーズも出ている。

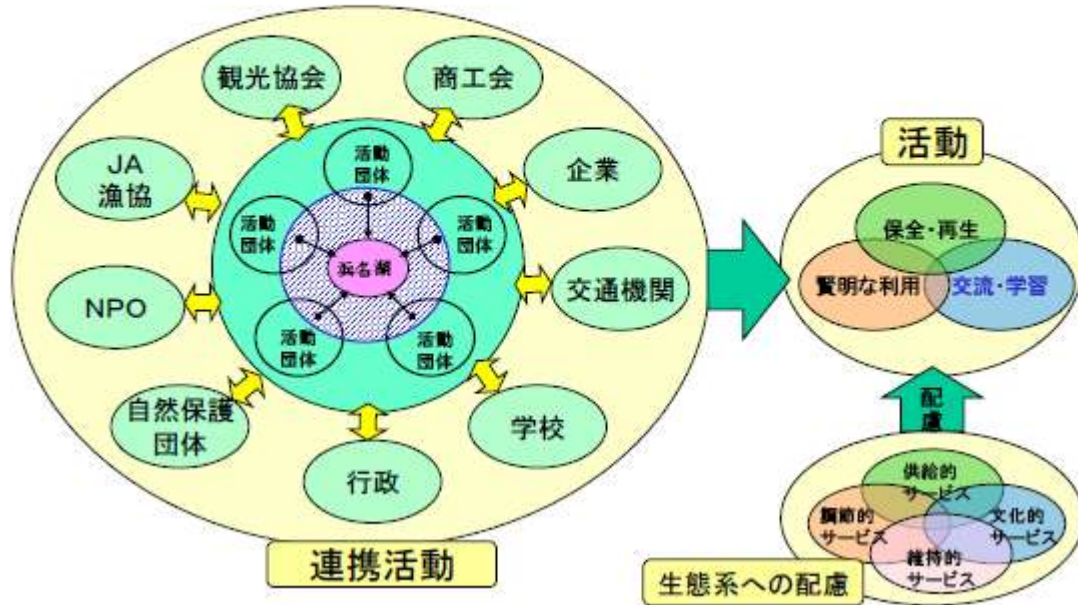
他の団体との連携について、各団体は、様々な環境保全をしているがバラバラなので、連携の必要性を感じているものの自ら連携のためのアクションをする団体は少なく、“つなぎ役” いわば“仲人”の存在を求めている。

昨年10月に開催した「天竜川・浜名湖フォーラム」の中で紹介した浜名湖の環境保全の方向性について説明し、その中で連携・ネットワークの重要性を述べた。浜名湖のネットワークを参考に天竜川も住民団体が連携していくことになり、今後は浜名湖と天竜川の環境保全活動が連携すれば県西部地域（遠州）でゆるやかなネットワークや情報交換ができると述べた。

12月に実施した「浜名湖エコワークショップ・環境保全活動の現場探訪の実施状況を紹介し、ネットワークのためには人、そして活動の現場も知っている必要があるとして、ITだけでなく、顔の見える関係を築いていくことが重要であると述べた。

はまなこ環境ネットワークの連携活動

静岡県西部地域の活性化のために、また、最近の環境に関する社会の動きを踏まえて、浜名湖を通じたこれまでの緩やかな連携活動から一歩踏み込み、関係するより多くの団体・組織と連携を深めた活動にステップアップすることも ……。



浜名湖の環境の変化については、県水産技術研究所など専門研究機関が調べたデータを示しながら塩水化や生態系の変化などが見られるようになり、この変化を研究機関、漁業者、環境保全に取り組む団体が共有していくためにもネットワークの必要性を強調した。

- ・浜名湖の環境保全団体が一斉に1つの事業を実施しているのが、クリーン作戦だけ。琵琶湖や、宍道湖、三河湾などで行っている一斉事業や1年を通じて行うモニタリング調査や多様な主体が進めているプロジェクトの例などを紹介した。



伊勢・三河湾流域ネットワーク



斐伊川のネットワークが中心の宍道湖ヨシ再生 P J

3) 環境保全団体による活動発表

参加した環境保全団体による活動の概要を発表した。

①夢くらぶ21

湖西市知波田地区の「おちばの里親水公園」の整備・管理を行っている。

ボランティア活動として、自分たちの手で公園管理・清掃を行う中で、市民への環境啓発が重要であると感じている。自分たち自身が余暇を楽しみながら自然の中で気楽に活動している。浜名湖の環境保全には、まず上流の森林保全が大切であり、そこをアピールしていきたい。



②湖西フロンティア倶楽部

湖西連邦の森林保全活動を実施。浜名湖に注ぐ「今川」の環境保全活動、体験学習事業などを紹介。第1回浜名湖エコワークショップで詳しい活動は紹介した。多くの団体とも連携したいと考えている。最近、NPO法人はまなこ里海の会と連携して年1回「アマモ場の学習会」を開催して、森や川だけでなく湖の環境保全の啓発にも関わり始めている。



③NPO法人静岡県フィッシングインストラクター協会

魚釣りを活動の主体として、水辺のマナー・ルールの指導、釣り技術の指導、自然体験学習会・自然観察会の開催、生態系の調査、福祉施設支援、青少年の健全育成、男女参画社会の推進、親子のふれあい活動等さまざまな環境保全活動を行っている。活動は、浜名湖だけでなく、県内全域を対象としている。



④川や湖をきれいにする市民会議

川や湖をきれいにする市民会議では、浜松の川（天竜川・馬込川・芳川）などをきれいにし、市民に対して啓蒙活動をしている。具体的な活動として、水フォーラムを年1回テーマを決めて、天竜川や浜名湖の各地で開催している。21年度は、佐鳴湖で開催した。ボート漕ぎ体験、釣り教室、ガサガサ探検隊、展示ブースなど行った。川や湖をきれいにする市民会議が主催するイベントとして、アマゴの里親募集を行っている。アマゴの発眠卵を配布し持ち帰り、ペットボトルの中で（冷蔵庫内での）飼育する事業。天竜川の自然を楽しむためのウォーキングイベントも実施している。



浜松市環境企画課が事務局を担っている。

⑤ウオット指定管理者（日本海洋調査㈱）

（ウオットの施設内において活動紹介）

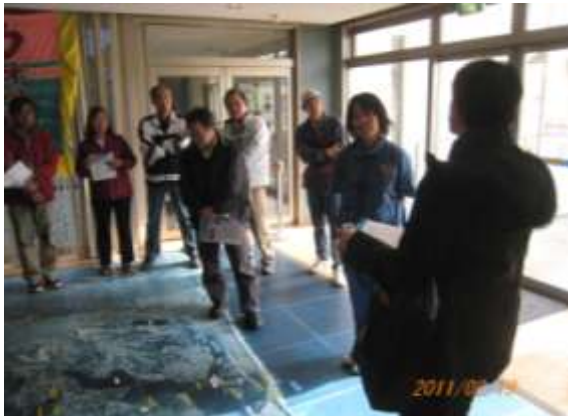
浜名湖の魚介類の現状、水環境に関する情報提供、ウオットにおける各種体験学習の事業紹介。

指定管理者の自主事業として、毎月2～3回子どもを対象にした魚や浜名湖・海を題材にしたクラフトやうなぎのエサやりなどの体験教室を開催している。また、月1回程度写生大会、タッチプールでのデモンストレーションなどの参加型イベントを開催している。浜名湖の魚や水のこと詳しい「学芸員」もあり、バックステージツアーなどの施設見学会にも対応している。浜名湖の環境啓発の活動拠点として活用が期待できる。



4) ワークショップ形式による意見交換

講演、活動発表、施設見学を受けて、ネットワークづくりや連携の必要性について意見交換した。



■主な意見交換の内容

- ・環境保全のためには、県の水産技術研究所浜名湖分場などの協力も得ながら、水の中の研究データをしっかり把握していく。
- ・浜名湖の環境を保全するためには、上流の森林環境の保全が重要で、そこが荒廃しているために流域で保全・啓発する運動が必要。
- ・浜名湖は、もっと森林（上流部）の活動とも連携すべき。
- ・水産技術研究所から浜名湖の水産資源の変化から見た浜名湖の魚介類の保全について意見を述べた。
- ・浜名湖の環境保全の活動目標として、はまなこ環境ネットワークは「ラムサール条約の登録」を掲げているが、勉強会だけでなく、身近で目に見える具体的な活動が必要とされ、「アオサの除去」について取組みたいと述べた。
- ・浜名湖には、アオサ除去でもアマモ場保全でもいいので1つ活動の柱が必要。

- ・県が過去に実施したアオサ除去の経緯・課題を紹介し、活動団体が参加してできる「アオサの除去活動」を研究していきたいと述べた。
- ・浜名湖の塩水化が進んでいることで、魚は外洋性の種類が増え、浜名湖は他の汽水湖より生物多様性が進んでいるが、昔はもっと数が多かった。これで生物多様性と言えるのか疑問。
- ・カニ・エビなどの甲殻類も減少し、水環境は確実に変わってきている。減っている魚介類もあるが、アサリが豊漁で増えているので、豊かな浜名湖であることには変わらない。
- ・浜名湖（猪鼻湖）は、ヘドロがあるから水質が改善されないのではないか？佐鳴湖は水質が改善されてきたが、ヘドロを除去したことにも起因しているのでは・・・。
- ・アオサもヘドロ化してしまうので問題であり、アオサ除去は重要であるが、市民がどこまでできるだろうか？
- ・手をこまねいてもしかたがないので、できることから少しずつやっていく。



5) 見学・事前学習

浜名湖エコワークショップが始まる前に、浜名湖体験学習施設「ウォット」バックステージを見学した。

このバックステージ案内・見学は、浜名湖の体験学習の拠点となる「ウォット」の見学体験プログラムであり、学芸員の方から浜名湖の生きものやウォットの展示施設の説明を受けた。



学芸員による説明



屋外のタッチプールでの体験学習説明



魚たちの水槽



エサの加工施設



大水槽



浜名湖の概要説明

Ⅲ 浜名湖エコワークショップ実施概要

(1) 第1回配布資料

(2) 第2回配布資料